

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区東葛西 6 - 3 7 - 2 0
園名	アスク東葛西第二保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗

<テーマの設定理由>

様々な国があり、子どもなりに文化の違いがあることを知り、様々な国への興味を広げる。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月: 世界地図の中の日本・アメリカ 国の大きさ 位置などの比較

12月: 日本とアメリカの文化の違い 食べもの、スポーツ

1月: 近隣の国と文化の違い

2月: 自分の国旗を作成する

3月: 自己紹介と自分の国旗を発表し人との違いに探究する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・国旗絵本 6冊
- ・世界地図
- ・絵カード
- ・紙・クレヨン・色鉛筆

4. 探究活動の実践

【3歳児実

問いを考える：日本ってどこになるの アメリカってどこにあるの 他にはどんな国があるのかその国の文化や国旗を知る。国旗からその国への興味を広げる

探究活動の様子：世界地図を見て、日本の大きさと位置。アメリカの大きさと位置についてしる。

大きい、小さいくらいはわかるがそれ以外のこと単体で理解していた。

国旗に対しては日本の国旗はすぐにわかる子が多く、アメリカもニュースやスポーツ法放映などで見かけるからなのか、知っていた。大きさの比較では国の大きさを比べる意味が分からず、大きな反応はなかった。

国が増えていく中でカラフルな国旗、また国旗絵本が増えたことで見る機会が増え、じっくり眺めている子もいる。文化の違いの題材としてスポーツをあげたが、相撲も野球も興味が薄れてきているため探究活動で知る機会にもなっている。スポーツの話題が多くなると、クイズのようにして組み合わせを考えていた。自分の国旗をつくるというお題は少々難しかったが、思い思いの国旗？作成し満足そうであった。

ふりかえり(保育士の気づき)：

子どもたちは色や形を楽しみ取り組んでいたため国旗作りは楽しんでいた。次年度からは3歳は別のテーマにしても良いではないかと考えた。

【4歳児実施分】

問いを考える：日本ってどこになるの アメリカってどこにあるの 他にはどんな国があるのかその国の文化や国旗を知る。国旗からその国への興味を広げる

探究活動の様子： 大きな世界地図から、日本を探す、アメリカを探すということは少し外の世界への興味が広がってきている4歳児には興味が広がっていた。日本とアメリカの大きさの違いもしっかりわかっていた。スポーツの代表として日本は相撲であったが、なかなか見る機会がないものの、子どもたちの遊びとして人気がある相撲、どこかでは目にし、遊びに根付いているためか違和感なく日本＝相撲と受け止めていた。国が増え、スポーツや食べ物との文化の違いを知る機会は絵カードを通して少しわかるのか興味深げに聞いていた。自分たちで話す機会を持つことで、少し知っている情報を口にする子どももいた。国を分けて考えることはまだむずかしいが、外国に興味を広げる機会になっている。

自分の考える国旗作りでは自由な発想で思い思いの国旗を描いていた。
国旗の絵本を通して様々な色、形があることを知る。年長児が丹念に描いている国旗を良く眺めていた。

ふりかえり(保育士の気づき)：子どもたちはその時々を楽しんでいるが、それをどう深めていくかはある程度大人の援助、投げかけが大切になってくる。園としても国旗を通してどんなことを掘り下げ、子どもの興味関心を広げていくのか、話し合い全体でも更なる環境づくりを来年度も継続していく必要があったと考える。

それぞれが英語で自己紹介をし、自分の国旗を発表する機会は照れながらも自分の国旗を嬉しそうに見せていた。自分の発想、想像で作成する絵も面白いと思った。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区東葛西6-37-20
園名	アスク東葛西第二保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音のなる仕組みを考えよう

<テーマの設定理由>

日常生活の中にあふれている音を分類してみる。気づかない音に気付く。様々な楽器を通してその音の違いや音色を認識する。身近なものから音を探し、音の鳴る仕組みを分析したり演奏したりする機会を楽しむ。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月:音楽絵本を通してその中から音を探し出す。イラストカードを見てオノマトペを知る。

12月:身近なものでオノマトペが表現できるものを探す

1月:素材や扱い方による音の違いを知る。

2月:様々な楽器(弦楽器・管楽器・打楽器など)音の出る仕組みに興味をもつ。

3月:様々な楽器(弦楽器・管楽器・打楽器など)音の出る仕組みに興味をもつ。さらなる探求を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・音楽絵本
- ・楽器(マラカス・うっどぎろ・スチールタンドラム)
- ・身近な素材(ペットボトル・新聞紙)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：良く知っている山のおんがくかの絵本を通し、絵本の中の音を取り出す。

そこから、音を取り出す面白さに気づかせ、身の周りのオノマトペを探す。

様々な音に興味をもたせたところから楽器の音、音色、高低さに気づかせていく。その違いに興味をもたせる。

探究活動の様子：山のおんがくかの歌絵本を通し、元気に歌い、楽器を鳴らしていた。

その様子を発表会につなげ、山のおんがくかを歌で疲労した。歌い慣れた歌詞から音を探すのを楽しみ、その後は身近なものから音探しをした。音を探すのに周りをきょろきょろと見まわして探していた。なかなか出てこない時にはヒントを与え、身近に潜む音探しを楽しんだ。何度借り返すと、音を聞き分け拾えるようになる。ペットボトルをウッドブロックの棒でたたき、こする時にはペットボトルを大切に扱い、こどもたちにとってしっかり楽器となっていた。人によって音の大きさ、聞こえ方が違い、その音に耳をそばだてていた。普段使うことのない鉄筋や大きなタンバリンなども大切なものとして扱い、トライアングルなどの高い音、響く音に耳を澄ましていた。

ふりかえり(保育士の気づき)：どんな子も本来歌は好きであるため、歌絵本を通して音探しをすることは楽しいようであった。最初は山の音楽家なら「分かってる、わかってる」と言わんばかりに気づきを大きな声で発表していた。身近なものの中から音を探すことは少し慣れるまでヒントが必要であったが、慣れてくると様々な発見を口にしていた。音が生活に沢山あることに気づいていた。様々な体験、機会が子どもたちの視野を広げていくため、大人自身が柔らかな頭を持ち、知っているはずのことを子どもと共に深掘していく面白さを感じた。フルートの本物に触れたことは大きなイベントとなった。本物に触れるということが感性を高める。今後も楽器演奏など触れる機会を増やしたいと考えた。

【4歳児実施分】

問いを考える：良く知っている山のおんがくかの絵本を通し、絵本の中の音を取り出す。

そこから、音を取り出す面白さに気づかせ、身の周りのオノマトペを探す。

様々な音に興味をもたせたところから楽器の音、音色、高低さに気づかせていく。その違いに興味をもたせる。

探究活動の様子：絵本の中の音探しでは、自分の気づきを我先にと言葉にしていた。音楽家のフルートから本物のフルートに触れる機会を持つことが出来、そっと口を近づけ、息を吹き込んでいた。吹き込むというより吹きかけるような感じであるため、音はそう簡単にはでないため、不思議そうにしていた。また、強く息を吹き込んでも出るものでもないため、「なんでだろう」と首をかしげてもいた。また、形状にも興味をもち、どういう仕組みでなるのだろうと考えているようだった。身近なオノマトペ探しは戸外でも行い、耳を澄ました探す様子もあった。楽器の分類では絵カードからカテゴリー分けの意味が分かるようになって来ているため概ね分けられていた。触れて分けることをするとより理解が深まり、分けることを楽しんでいた。3月には振動を感じる楽器も複数用意できたため、じっくりと耳を傾け、振動を肌で感じる事もできた。

ふりかえり(保育士の気づき)：フルートを実際に見て触れてみたことで、息を吹き込むことで音が出る仕組みに気づける子が何人かいた。ビンに息を吹き込むと音がするというのとフルートを拭いてみた、フルートを拭いて音が出るのを聞いた経験がそこで結びついたようであった。実体験が他のことと結びつきやすいということだった。

オノマトペを通して身近な音探しをすることは楽しいが、導入やそこからの広がりを考えると、もう少し事前に様々なしかけやシチュエーションを考えても良かったのではないかと思った。

音の行程さや音の響き、振動に興味をもつことは面白かった。

【5歳児実施分】

問いを考える：良く知っている山のおんがくかの絵本を通し、絵本の中の音を取り出す。

そこから、音を取り出す面白さに気づかせ、身の周りのオノマトペを探す。

様々な音に興味をもたせたところから楽器の音、音色、高低さに気づかせていく。その違いに興味をもたせる。

探究活動の様子： 山の音楽家の音楽絵本からの音探しは簡単とばかりに答えていた。演奏では簡単な打楽器を使用し、支援児も一緒に楽しむことが出来た。発表し合う中では一番大きくラスで多少は楽器の経験があるが、少し緊張しながら鳴らしていた。身近なオノマトペでは、室内、戸外とも張り切って探していた。なかなか気づけない子は他の子どもの気づきに追いつけず、なかなか自分から出てこない子もいた。音に気付くには耳を澄ます、良く周りを見回す力も必要であり、そうした力の弱い子は追従に終わってしまいがちであった。ビンに息を吹き込むこととフルートを拭くことが結びつき、面白がっていた。楽器の分類でもカテゴリー分けを楽しみ、間違いを気にせず、自分たちの考えで分けていた。振動を感じる楽器に対してはみみすましじっくり聞き入る子と興味を示さない子に分かれていた。楽器にあまり興味を示さない子は音自体にも鈍感なところが見受けられた。全体的には音の鳴る仕組みまでいかなくとも様々な音を楽しんでいた。

ふりかえり(保育士の気づき)：本物に触れる機会はやはり大切であり、子どもの中にしっかりと残るものだなと感じる。ビンに息を吹きかけ音が出る仕組みとフルートが結びついていていた。また、様々な振動を感じる楽器、音の響きを体験し、じっくり音に耳を傾けるようになる。戸外でのオノマトペ探しでは普段から様々なことにアンテナを張っている子の発見が早く、のんびり、マイペースで普段から人の話の入っていかない子はなかなか見つけられずいた。音への感性、聞きたい音が多い生活が普段の聞き分けることにもつながっているのかもしれない。様々な仕組みや聞き分けも面白いが何より音楽は楽しめるのが一番。知識をつけていきながらも感性を豊かにして行ける取り組みも今後考えていきたい。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都江戸川区東葛西6-37-20
園名	アスク東葛西第二保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ボール

<テーマの設定理由>

身近にあるボールを素材にボールって何だろう。ボールの様々な用途を考えながらボールとボール遊びにへの興味関心を深めていく。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し、ボールを題材にし、ボールに関する様々な問い、実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月:ボールって何だろう いろいろなボールに触ろう!知ろう!

12月:投げやすいボールとは?

1月:転がりやすいボールとは 2月:蹴りやすいボールとは?

3月:まとめと比較

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・様々なサイズ、形のボールを用意した。
- ・的当てやゴールを用意し、ボール遊びの幅を広げた
- ・大きなボールを用意し、空気の量を変えて子どもたちに触れさせたり、ボールの動きの違いを見せて比較し考える機会を与えた。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：見て、触って特徴を探す。ボールってどんなことが出来る？

探究活動の様子： 見て、触って特徴を探す。大きさや形の違いからボールの動きが違い、特にラグビーボール状のボールは思わぬ方向に跳んでいくため、面白がっていた。

思わぬ動きは笑いが起こり、ボールの動きを皆で追い、見つめていた。

的当てではいくつかのボールを投げるが、どれも一生懸命に向かって投げ、当たらなくとも投げること自体を楽しんでいた。

ふりかえり(保育士の気づき)：1種類のボールで遊ぶのではなく、何種類かのボールを並べて比較することでいつもとは違う、ボールへの興味関心が高まっていた。

小さい、大きい、形が変形しているなど投げたり、転がしたりすると動きやスピードが違うことに気づいていた。それを面白がり、飽きることなく遊んでいた。

投げるといってもボールの大きさや形によって持ち方も変わり、子どもたちなりに工夫して持ち方を変えていた。

大きなぼーの空気の量の違いについては、空気の量が違うということよりも形状が変わる面白さ、単に大きいということが子どもたちの面白味となっていた。普段使用することのない、大きなボールがあるというだけで楽しかったようである。3歳児は楽しいから遊びこむ中で探求心が生まれてくると思う。今後も一つの遊具で様々な遊び方を通し、物に対する探究心を掘り下げていけると面白いのではないかと考えた。

【4歳児実施分】

問いを考える：見て、触って特徴を探す。ボールってどんなことが出来る？

比較し、考える。選択をする。

探究活動の様子： 様々なボールを並べることで子どもたちは「大きい、ちいさい、面白形、変な形、何に使うボール？」など思い思いのことを口にしながら触っていた。自分の持っているボールと友だちの持っているボールを視覚的に比較し、動きの予想を立てていた。講師が弾ませたり、転がしたりする様子を見て自分の予想があっている、予想外だったなど表情から読み取れた。講師のすることを見ながら頭の中で考えているのが伺えた。

実際にボール遊びを始めると、思い思いの遊びとなり、考えるより動くことを楽しんでいた。講師から問いがあるとそこからまた、考え始め、動いてみて、使ってみての感想やまた新たな予想を立てていた。

大きなボールはそのもの自体に喜んで「わあ～」と歓声があがっていた。

空気を抜くと、パンパンに張っていた物から力が抜けたように見えるのか、そっと触る子がいた。

ふりかえり(保育士の気づき)：ボール遊びは子どもたちの大好きな遊びであるが、最近ではボール遊びを思いきり出来る場所がないため、あまり経験がない。保育園でも道路に面していること、公園でもボール遊びが出来るところが少ないため、ボールで遊びこめていない。ボールを題材にしていろいろ考えてみることは面白かった。形、大きさによって比較する。空気を抜いて形状が変わり、弾む、弾まないのボールとしての動き自体が変わることは興味深かったようだ。また、空気が目に見えて抜けた状態は、ボールが弱弱しく見えるのか扱いが変わる様子が面白かった。普段からボール遊びは好きであるが、ああいった大きなボールでの遊びも今後考えていきたい。空気についての探求をしても面白かった。

【5歳児実施分】

問いを考える：見て、触って特徴を探す。ボールってどんなことが出来る？
比較し、考える。選択をする。

探究活動の様子：ボールの大きさ、形状の大きさを並べた状態からいろいろ口にしていた。「そのボール何に使うの？」「どうしていろいろなボールがあるの？」等なにが始まるのだろうと思ひ思ひの問いかけがあった。大きさは見てわかるが、より大きさの違いが分かるため、同じような大きさのボールも〇〇の方が多きなど、比較を楽しんでいた。ラクビーボールにはいぼ状の突起もたくさんついているため、そうした形状や見た目、手触りなども気にしていた。

弾む、またその動きやスピードの比較を楽しみ、投げる時には投げやすいボールを選ぶ子も多かった。後当て、ドッチボールを楽しむ。ドッチボールでは適度な大きさでないと人に当たらないことが分かり、ボールを選んでいた。

大きなボールでの遊びは普段目にしない大きさに興奮気味であった。

ふりかえり(保育士の気づき)：

空気がしっかり入っているボールと空気を抜いたボールの比較はとても興味深く、空気というものへの探求心も芽生えたのではないかなと思う。

大きさ・形状など身近なもので様々な比較が出来る。普段からそうした比較、予想を立てるなどの遊びを自然に取り入れいかれたらと考える。身近なものを深掘する。大人から見ると簡単そうなことをあえて考えてみる。そこに子どもならではの視点があり、新たな見方、発見があるかもしれない。今回一つのテーマを追っていくことの面白さを体験する。今後も一つのことを掘り下げること考える、ディスカッションする機会を増やせていけたらと考えた。

